

リハビリテーション専門職のキャリア自律と資格取得に関する構造的分析
～効率的な人材育成戦略の提案

A Structural Analysis of Career Autonomy and Professional Certification in Rehabilitation Professions: A Proposal for Efficient Human Resource Development Strategies

学籍番号 1275116 高芝 潤

【要旨】

本研究は、リハビリテーション専門職における資格取得とキャリア形成の関係を明らかにし、資格取得がキャリア自律性や職業・組織コミットメントに及ぼす影響を検討することを目的とする。医師や看護師と比較し、リハビリテーション専門職では資格取得が義務化されておらず、昇進や報酬への直接的な影響が不明瞭であることが課題とされている。本研究では、資格取得がキャリア満足や職業・組織への関与にどのように影響するかを分析し、キャリア形成支援の方向性を検討する。

本研究は、リハビリテーション専門職を対象に、アンケート調査と半構造化インタビューを用いた混合研究を実施した。アンケートでは、資格取得状況、キャリア自律、キャリア満足、職業・組織コミットメントについて計 82 項目をリッカート尺度で測定し、118 名の有効回答を得た。インタビュー調査では資格取得者 12 名、非取得者 3 名を対象に、資格取得の動機、影響、障壁について深掘りした。

結果として、資格取得者は非取得者に比べてキャリア自律性とキャリア満足度が有意に高いことが確認された。また、職業コミットメントとの関連性は示されたものの、組織コミットメントとの関係は一様ではなかった。特に、資格取得者は専門性向上への意識が高まる一方で、昇進や職務の変化が不明瞭であるため、組織への帰属意識が必ずしも向上しない傾向がみられた。さらに、資格取得の障壁として、取得にかかる費用や時間的制約、組織からの支援不足が挙げられた。

本研究の結論として、資格取得をキャリア形成の一環として制度的に位置づけることが求められる。具体的には、資格取得後の役割や昇進基準の明確化、診療報酬への反映、職場による資格取得支援の強化が必要である。資格取得が個人のキャリア発展に寄与すると同時に、組織との関係性を維持・向上させるためには、組織的なキャリア支援と職能団体の積極的な関与が不可欠である。本研究は、リハビリテーション専門職における効率的な人材育成戦略の基盤を提示し、資格取得を促進するための制度的整備の必要性を示唆するものである。